

TSY MANINONA

JOURNAL SUR MADAGASCAR



木川 莉江 KIGAWA RIE

JICA青年海外協力隊として
マダガスカルのアンブイマナンブラで活動中
大塚製薬株式会社より現職参加
(2021-3次隊/コミュニティ開発)

任地について

私の任地、アンブイマナンブラについてご紹介します。首都から約20kmとそれほど遠くない標高約1300mの丘の上に位置する街です。

人口は19,636人、年齢構成は18歳～60歳が45.75%、06歳～17歳までの若者が33.91%となっており、子供が多く活気に溢れています。

また任地住民の約80%は農業で生計を立てている農家さんです。西部には工場や会社もありますが、東部を中心にそれ以外は農耕地が広がっています。農業は各家庭で個別に所有した区域を耕作しており、お米に加えてトマト、ネギ、カリフラワーが任地の主な栽培製品です。住民は優しく人懐っこい人柄で自然も豊かで本当に素敵な街です。しかし貧困・衛生・環境破壊など問題も沢山あります。

参照：Ambohimambola PCD

コミュニティ開発の活動

主に、日本の農村地域開発手法である「生活改善アプローチ」を活用して、出来ることを探し進めていきます。配属から約3ヶ月で調査、そこから配属先と話し合いながら活動計画を立て、計画内容に沿って活動を実行していきます。

今は調査の段階で、マダガスカルのことをできる限り知れるように、任地にある10つの区に訪問し、区長さんに挨拶しながら、それぞれの地で知り合いを増やし、住民の生活を見ていけるように頑張っています。（なかなか上手くいかず、とても苦戦していますが、笑）

今一番進んでいるのは衛生関連の調査。現状を把握するためのアンケートを作成し、各家庭と食品関連のお店に配布。衛生環境は正直良いとは言えません。例えば、まだ手洗いの習慣が定着していない人も多く、屋台の食べ物を食べた後にお腹を壊す人も多し。（食べ物が原因か手についた菌が原因かはわかりません。）道端ではごみをポイ捨てする人を毎日のように見かけます。アンケートの結果を見て、できることを考え一つひとつやっていきたいです。



フルーツが安くておいしい！
よく知り合いの方に有り難くいただいています。

66

Tsara ny andro

「いい天気〜☀️」という意味

今は乾季のため、ほとんど雨は降りません

朝と夜は少し肌寒いですが、基本的に1年中を通して
過ごしやすい温度なのもマダガスカルの魅力の一つです



標高が高く、どこを見渡しても絶景の任地。ほとんど坂道なので足腰が鍛えられます。笑

SUR JOURNÉE NATIONALE DE LA FONDATION

6/26 独立記念日のお祭り

マダガスカルは1960年6月26日にフランスから独立。今年は独立62周年となります。マダガスカル人にとって独立記念日は1年のなかでいちばん大切にしている日。そのため、皆この日のために沢山準備をしていました。歌や踊りの練習、売店に出す食事の仕入れ、夜に使う飾り付け（紙提灯が一般的）の購入、、、

当日は市長さんを先頭に行進から始まり、牧師さんと共にお祈り、続いて子供たちのくじ引き（当選するとボール等が貰える）、歌やダンスの披露。沢山の住民が集まり、驚くほどの大盛り上がりでした。

私も市役所に勤める女性と共に、日本の盆踊り「東京音頭」とマダガスカルの曲でHIPHOPのダンス。約1ヶ月仕事終わりの14:00頃からほぼ毎日練習していたので、とてもいい感じの仕上がりに嬉しかったです。これをきっかけに毎日市役所のメンバーとお話することができ、仲良くなれたので良い機会でした。（きっと語学力も少しは向上したはず、、、）

マダガスカル人はとにかく踊り・歌が大好きです。お祭りに限らず、どのご家庭にお邪魔しても、ご飯を食べた後は大音量で音楽を流して踊り歌います。日本では普通大人が人前で踊ることはかなり抵抗があると思うのですが、マダガスカル人はそんなことはありません。人に見られている意識よりも、その瞬間を自分が心から楽しむことを大切にしているように見えます。日本との違いに日々驚きの連続です！



独立記念日の前夜と当日、夜はきらきらに飾り付け。



当日にみんなで食べたお昼ご飯。
味つけが塩ダレベースでとても美味しかったです！

